

日本での交換留学

国立台湾大学

潘柏茜（ハンハクセン）

「自己成長」という言葉が、一年間の留学を終えた感想として最もふさわしいと思います。楽しかったこと、悲しかったこと、悩んだことなど、すべてをひっくるめて、留学を最後までやり遂げたという達成感で満ちています。

振り返れば、日本に来る前に、友達ができるのか、授業についていけるのか、慣れない土地でやってゆけるのかと、多くの不安を抱えていました。しかし、留学が始まると、すぐに日本での生活が好きになり、これまで充実した一年を過ごすことができました。

留学で学んだことがいくつかあります。私は日本語のほか、古典文学や多言語社会をテーマにした授業を履修しました。これらの内容は母国でも学んだことがありましたが、日本語で授業を受け、異なる視点から物事を考える環境に身を置くことで、既に学んだことをさらに深めることができました。

また、日本人や世界各国からの留学生と交流することによって、視野を広げると同時に、多角的な視点も身につけることができました。皆さんとの関わりを通じて、異なる意見や価値観を理解し尊重すること、そして自分が無意識のうちに持っていた偏見に気づくことなど、重要なことをたくさん学びました。

もちろん、留学で得た最大の成果は、日本のことを深く知ることができたことです。文化や言語だけでなく、日本でのボランティア活動や講演会、イベントなどを通じて、単なる観光では経験できない社会や人々の生活に触れる機会を得ることができ、とても貴重な経験になりました。

今までお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

指導教官の埋忠先生、お忙しい中毎月の振り返りシートを読んで、温かい励ましの返事をしてくださり、ありがとうございます。萩原先生、いつも留学生のことを気遣ってくださり、生活に役立つ情報を教えていただき、心から感謝しています。そして、国際課の担当者の皆様や管理員の方々がいるからこそ、留学生たちは日本の生活に早く適応し、快適に暮らすことができました。ありがとうございます。最後に、学びの多い授業をしてくださった王先生、加藤先生、イー先生に感謝します。先生方の熱心で丁寧なご指導のおかげで、楽しく勉強できて、日本語がより上手に使えるようになりました。誠にありがとうございます。

この一年間、忘れられない思い出をたくさん作り、さまざまな壁を乗り越えながら、自己成長を実現しました。日本で留学できて、本当によかったです。

